

ピアソラの魂を受け継ぐ、唯一無二の音楽体験

パブロ・シーグレル 2台ピアノ六重奏

東京公演 2025



PABLO ZIEGLER

Two Pianos Sextet

グラミー賞受賞ピアニストが誘う
音の対話が躍動する世界



8/27 水

19:00開演 (18:30開場)

東京都江東区
文化センターホール

東京都江東区東陽4-11-3

東京メトロ東西線「東陽町」駅 1番出口

主催：BUENOS AIRES CONNECTION
後援：在日アルゼンチン共和国大使館
(申請中)

全席自由 ¥6,000 / 当日券 ¥7,000

チケット取扱い：チケットぴあ
<https://t.pia.jp/> Pコード 300-740

【出演】

パブロ・シーグレル (作曲 / 編曲 / ピアノ)
北村聡 (バンドネオン)、鬼怒無月 (ギター)
ヤヒロ・トモヒロ (パーカッション)
西嶋徹 (コントラバス)、志和雅恵 (ピアノ)

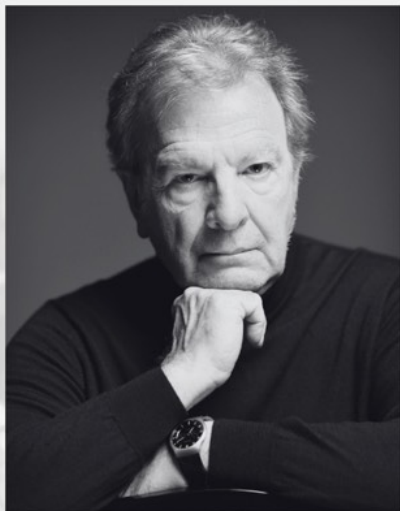
【お問合せ】info@pabloziegler.com

協賛：株式会社 平和医用商会
特別協力：エル・チョクロ、在京白亜会、Con Grazia

ご予約



クラシック×ジャズ×タンゴ 旋律が情熱を紡ぐ音楽錬金術



パブロ・シーグレル（作曲・ピアノ・編曲）
ブエノス・アイレス出身。ニューヨークを拠点に国際的に活躍する巨匠アーティスト。アストル・ピアソラの黄金期にピアニストとして10年間活動し、その後も独自のヌエボ・タンゴを追求し続けている。グラミー賞（ラテンジャズ部門）、ラテングラミー賞（タンゴ部門）を受賞し、その他多くの作品がノミネートされる。エコークラシック賞では「国境なきクラシック音楽」部門を受賞。BBCプロムスでは、史上初「Tango Proms」を自身の五重奏団とプリテン・シンフォニアと共演、ジャンルを超えた革新性で高く評価される。リヨン国立管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団など世界的オーケストラと共演を重ねる他、ブランフォード・マルサリス、ゲイリー・パートン、リチャード・ガリアーノといったジャズ界の巨匠たちとの共演も多い。現在は新作オペラや2台ピアノ作品など委嘱作品に取り組む傍ら、教育者としても積極的に活動し、プロの音楽家から次世代の若い演奏家まで幅広く指導を行う。スタインウェイ・アーティスト。ニューオーリンズ名誉市民。



西嶋徹（コントラバス）

1973年、東京生まれ。ジャズとアルゼンチン・タンゴを軸に活動を展開し、ジャンルを超えた豊かな音楽性に定評がある。これまで綾戸智恵、小野リサ、カルメンマキ、小松亮太、葉加瀬太郎、パブロ・シーグレルなど、数多くのアーティストと共演。シンガポール、韓国、中国をはじめ、国内外のツアーでも活躍を続けている。2014年には、ピアニスト林正樹と共にアルバム「El retratador」をリリース、2018年にはベースソロアルバム「Phenomenology」をリリース。2021年には、藤本一馬(gt)、栗林すみれ(pf)、福盛進也(dr)とのグループRemboatoでアルバム「星を漕ぐもの」をリリース。2024年、自己のリーダープロジェクトとして蒼波花音(sax)、遠藤ふみ(pf)、と共にアルバム「幽けき刻」をリリース。

アルゼンチンタンゴの革命家アストル・ピアソラの名パートナーとして10年にわたり活動し、「ヌエボ・タンゴ」の継承と進化を担う第一人者、グラミー賞受賞ピアニスト・作曲家・編曲家のパブロ・シーグレル（Pablo Ziegler）の待望の来日公演。

2011年の結成以来、国際的に高い評価を得てきたシーグレルの日本人メンバーとのアンサンブルは、2026年に結成15周年という記念すべき節目を迎えます。本公演では、ピアソラの名作を再構成したレパートリーと、シーグレル自身のオリジナル作品を織り交ぜ、情熱や哀愁にとどまらず、都市の喧騒、クラシックの構造、ジャズの自由な対話が融合する奥深い音楽世界が展開されます。

メンバーは、シーグレルが長年厚い信頼を寄せる日本屈指の実力派アーティストたち。北村聡（バンドネオン）、鬼怒無月（ギター）、西嶋徹（コントラバス）、ヤヒロ・トモヒロ（パーカッション）を迎え、シーグレルの卓越したリーダーシップのもと、それぞれの個性ある音楽性が見事に融合し、唯一無二のサウンドが生まれます。緻密で力強いアンサンブルと、各メンバーのソロが光るステージでは、躍動感あふれるリズム、情熱的な旋律、そして即興性に富んだ表現が交錯し、ブエノスアイレスの街角にいるかのような臨場感あふれる音楽体験をお届けします。

また今回の公演では、特別企画としてアルゼンチンでも好評を博した2台ピアノ六重奏による編成を日本初上演。共演には、ブラジル、アルゼンチン、ニューヨーク、カナダ等で活動を共にしてきたピアニスト・志和雅恵を迎え、オーケストラのように重厚な響きと、繊細さを極めた音楽的対話が繰り広げられます。

「私はピアソラと共に音楽の革命を体験しました。その精神を受け継ぎ、現代の感性で語り直すことが私のミッションです。今回のプログラムでは、私が敬愛する日本のメンバーとともに、新編成で音楽的対話の旅へ皆さんをご案内します。」— Pablo Ziegler

ヌエボ・タンゴの革新と情熱を、今ふたたび。
音楽史に刻まれる一夜を、ぜひご体感ください。

北村聡（バンドネオン）

関西大学在学中にバンドネオンに出会い小松亮太、フリオ・バネに師事。アルゼンチン、チリ、オーストリア、韓国など世界各国のフェスティバルに出演。東京オペラシティリサイタルシリーズ「B+C」に出演(2014)、意欲的なプログラムに好評を得る。アンドレア・パッティストニ指揮のピアソラ作曲「シンフォニア・ブエノスアイレス」日本初演に参加(2021)。館野泉、鈴木大介、川井郁子、ミカ&リチャード・ストルツマン、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団と共演、様々なジャンルの音楽家と交流。NHK大河ドラマ「八重の桜」「青天を衝け」、映画「マスカレード・ナイト」など数多くの録音に参加、繊細な表現に於て定評。最新作はマレー飛鳥とのデュオアルバム「Sound and Breath 音と呼吸」(2025年1月リリース)

鬼怒無月（ギター）

神奈川県出身。'90年に自身のグループ、Bondagefruitを結成。'94年に勝井祐二(vn)と創設したレーベル「まぼろしの世界」より現在までに最新作の「Bondagefruit6」を含むアルバム6作を発表。同バンドは「Scandinavian Progressive Rock Festival」、サンフランシスコの「Prog Fest」('99)に招かれるなど海外でも高評。チェンバロックバンド「Warehouse」(EWE)、ギター表現の極を追求する「Coil」、勝井祐二とのデュオ「Pere-Furu」、壺井彰久との「ERA」、吉田達也の「是巨人」、カルメンマキの「サラマンドラ」、更に、灰野敬二、常味裕司とのコラボ、自身のタンゴ五重奏団、ギターソロ等、日々自己のギタースタイルを進化させ続ける異才ギタリスト。



ヤヒロ・トモヒロ（パーカッション）

少年時代をカナリア諸島で過ごした異色の打楽器奏者。山下洋輔、渡辺香津美等と共演。「武満徹メモリアルコンサート」でカーネギーホール等に出演。サイトウ・キネン・フェスティバル松本に出演。ウルグアイの至宝、ウーゴ・ファトルーソとのDuo「ドス・オリエンタレス」は、2016年在外公館長表彰受賞に続き、2022年外務大臣表彰を受ける。2021年60才を節目に、ピーター・バラカン司会のもと山下洋輔、小野リサをはじめ著名な音楽家27名を招いた「還暦記念LIVE配信」は大きな話題となる。2023年3月小野リサと自らのリーダーバンド「サロゲートトリオ」の公演が開催された。現在Dos Orientales、室内楽団「八向山」、サロゲートトリオ、公開車庫、マレー飛鳥(vn)やFlorencia Ruiz(vo.g)とのUnit等、国内外で活動。

志和雅恵（ピアノ）

3歳よりピアノを始め、幼少期よりピアノコンクールで受賞経験をもつ。フォーダム大学にて経営学の学士号を取得後、バークリー音楽大学にてアートマネジメント課程を修了。ピアソラ、シーグレル、バッハ、チャイコフスキーの作品を中心に、シーグレルの2台ピアノ作品におけるパートナーとして、ニューヨークを拠点に国際的な演奏活動を展開する。2022年には、アルゼンチン国立劇場にて、Daniel Pipi Piazzolla(アストル・ピアソラの孫弟)、Walter Castro (bn)、Horacio Mono Hurtado(Cb)、Armando de la Vega(g)と共に、シーグレルとの2台ピアノ六重奏として出演。繊細さと感受性が光る表現力で、高い好評を得る。これまでにブラジル、アルゼンチン、カナダ、アメリカにて、シーグレルおよびオーケストラと共演。